

⑫ 宮 下 繁 氏 (水晶島元島民)



私は、根室市の落石に来てから 64 年になります。水晶島（すいしょうとう）には 15 歳まで住んでいました。ちょうど皆さんと同じ中学 1、2 年生のときは水晶島で勉強していました。ロシアの小学校は 9 年制なので、小学校の 7、8 年生として過ごしていました。大変貴重な体験であり、そのときにロシア語を習い、この 2 年間でロシア語と英語をマスターしました。このときのことが一番印象に残っています。

来年 80 歳になります。皆さんのおじいさん、おばあさんより年をとっているのではないかなと思います。

水晶島は納沙布岬から見えますね。納沙布岬から 7 km しか離れていません。でも、子供のころは、まだまだ遠いものと思っていました。

歯舞群島には 5 つの島があります。水晶島、秋勇留島（あきゆりとう）、勇留島（ゆりとう）、志発島（しばつとう）、多楽島（たらくとう）、この 5 つをもって歯舞群島となります。

水晶島の広さは 14 km²です。昭和 20 年の終戦当時は、150 戸くらいの世帯、970 人くらいの人口となっていました。

なお、昭和 15 年ころには、200 戸くらいの世帯、1,300 人くらいの人口があったとのことでした。

水晶島の産業は、落石と同じで昆布漁がほとんどです。昆布を採るため、富山県や石川県から 7 月から 11 月までの間、30 軒から 40 軒程度の家族が水晶島に来ていました。夏になると生徒が増え、冬になると生徒が減る、このような状態でした。

小学生の数は、夏は 80 名、冬は 60 名、先生は校長先生が一人です。今では考えられないことです。みんな仲良く、いっしょになって遊んでいました。当時は野球道具やドッジボール、卓球のラケットなどの用具は見たことがありませんでした。

動物は馬、犬、猫しかいませんでした。牛は見たことがありませんでした。

自動車も見たことはありません。汽車に乗ったことのない生徒は 7、8 割くらいでした。

馬だけはたくさんいました。道路は「けものみち」です。馬車はありません。荷物は馬の背中にくりつけて運んでいました。私は小学校 2 年生ころから馬に乗っていました。冬は雪のため道路もないので、スキーで通いました。そのような島での生活でした。

小学校3年生になると、船の櫓を漕げなかったら馬鹿にされます。また、学校に行く前には、刺し網を上げに行き、カゴに魚を外して、それから学校に行っていました。これが普通でした。

食べ物については、米、味噌、醤油は根室で買っていましたが、それ以外の副食、野菜や魚類は全部自給自足です。

缶詰工場が3、4か所ありました。カニやホタテの缶詰を作っていたようです。たくさんの女工さんが来て作業をしていました。



昭和20年に戦争が終わりましたが、ちょうど私は夏休みで根室に来ていました。今を思うと、島の夏休みはずいぶん長く、2か月くらいあったように思います。子供に昆布の手伝いをさせるためだったのでしょうか。

根室で食料や薪、炭などを買い、島に帰ろうと思っていた矢先の9月2日、根室の港に国後島の船が入港し、黒山の人に乗っていました。ソ連軍が国後に侵攻してきたので逃げてきたとのことです。

ソ連軍が入ってくるという噂はありましたが、いつ来るのかという情報はありません。水晶島に戻って荷揚げをしているときに国後島の状況について話をしていたところ、一人の若い人が走ってきて、「軍艦が来た。」と言うのです。島の高台から大きな軍艦が確認できました。ソ連軍です。外人の顔なんて見たことがありません。今とは違い、外人というのは野蛮で、何かあったら殺されてしまうと思われていました。また、外人に殺されてしまうくらいなら、日本人はその前に死ななければならないという思想がありました。そのような気持ちがあったので、恐ろしくて仕方がありません。その晩、早速、逃げようということになり、実家の船を使い、近所の60人くらいの人たちと根室に行きました。

根室は空襲で焼け野原になり、何も無い状態でしたので、お寺の庫裏（くり）を借りて過ごしました。3日ほど経って、ソ連軍が島からいなくなったということから、島に帰りました。

当時、ソ連軍が入ってくるときは、銃を撃ちながら家に入ってきて、荒らし回ったという話を聞きますが、私のところでは、そのようなことはなかったような気がします。もちろん、家を留守にしていたこともあります。畳の上に土足の跡はありました。タンスを物色されたようですが、なくなったものはありませんでした。

ソ連の駐屯地は志発島にあり、水晶島には月に数回、見回りにくる程度でしたが、根室に引き揚げようと思っていた人はたくさんいたと思います。しかし、根室は焼け野原のため、来ても住

む所がありません。親戚がいる人は別ですが、だれもいない人はどうすることもできません。今はソ連軍がないので、来年まで大丈夫ではないか、春になったら根室に行こうということで、私のいた集落は春まで待つこととしました。

ところが、11月ごろにソ連軍の幹部が来ました。共産国は15歳以上60歳までの成人男女は労働する義務があるとのことで、15歳以上の男女は志発島に連れて行かれました。そのような事情で、根室に引き揚げるができなかったのです。3分の1くらいの方は島に残らざるを得ませんでした。

昭和21年4月、ソ連軍は水晶島に進駐しました。最初に来たソ連兵は通常の兵隊でしたが、次に来たのはKGB系統の兵隊です。彼らが入ってきてからは、日本との交流は一切、遮断されました。

落石には、昭和24年に来ました。ちょうど中学卒業のころです。島と同じような生活です。魚をたくさん捕りました。当時は、今のように大量に魚を捕って加工するという技術はありません。冷蔵庫もないので、食べる分だけしか魚を捕っていませんでした。そういう時代なので、魚がたくさんいました。

北方領土には千島海流（親潮）が流れています。ここではサケ、マス、タラ、カニなど、たくさんの魚が捕れます。世界三大漁場の一つと呼ばれるくらい、資源が豊富です。

しかし、現在、納沙布岬から1.5kmしか自由に漁ができません。千島海流の恩恵は、ほとんど受けられない状況です。

根室は千島海流のおかげで漁業が栄えました。今は、その漁場がありません。サンマ、タラ、サケ、マス。みんな今はロシアにお金を払って捕らせてもらっています。北方領土が返ってくれば、根室の生活は数段良くなることは確かです。なんとしても、日本に北方領土を返してもらいたいと思っています。

日本人は、領土のことについて、あまり関心がないと思います。韓国や中国では政府が動くとも民衆は騒ぎます。日本人の中には、北方領土の所在すら知らない人もいます。

北方領土は全体で千葉県と同じくらいの広さです。国後島だけでも、沖縄本島より大きいのです。沖縄を知らない日本人はいないけれども、国後島が沖縄本島より大きいことは、あまり知られていません。

私たちは当事者として北方領土返還要求運動を行ってきました。しかし、これからは若い人たちにがんばってもらわないと、島の問題はなくなってしまうと思います。皆さんには、島は大事なものと認識していただき、運動を進めてほしいと思います。これが私たちの願いです。

<訪問校>

- 根室市立落石中学校（平成24年11月28日（水））

